



エコアクション21

## 環境経営活動レポート

2019. 6. 1～2020. 5. 31



2020年6月20日作成

株式会社 鹿 熊 組

# 目 次

1. 環境方針
2. 事業内容
  - 1) 事業所名及び代表者名
  - 2) 所在地
  - 3) 環境管理責任者及び担当者
  - 4) 事業内容
  - 5) 事業規模
3. 活動組織
4. 環境目標
5. 環境活動の取組結果と評価
  - 1) 環境活動の取組結果
  - 2) 環境活動の取組結果の評価
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
7. 代表者の評価と見直し

# 1. 環境方針

## 【環境に対する基本理念】

当社の経営姿勢は常に堅実性に重点をおき、誠実・情熱・技術の三本の柱で様々なお客様のご要望にお応えすることをめざしてまいりました。

当社が長年にわたり蓄積してきた技術力を活かし、三本の柱の元で、環境負荷の発生を可能な限り軽減して、自然環境の維持・改善・向上・保護を目的とした持続的活動を行うことにより人類共通の課題である環境問題に取り組んでまいります。

## 【環境方針】

- ① 省エネルギーに努めて、温室効果ガスの発生を可能な限り抑制いたします。
- ② 当社の事業活動に伴い発生する産業廃棄物及び建設副産物の発生抑制・削減・リサイクルに取り組めます。
- ③ 環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ④ 事務用品のグリーン購入への取り組みを行います。
- ⑤ 節水に心がけ水資源の有効活用を行います。
- ⑥ 環境関係法規制を遵守します。

これらについて環境目標・活動計画を定め、全従業員に周知し実行します。  
定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めてまいります。

2020年6月20日

長野県長野市大字鶴賀緑町  
1631番地3号

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 聡

## 2. 事業内容

### 1) 事業所名及び代表者名

株式会社 鹿熊組  
代表取締役社長 鹿熊 聡

### 2) 所在地

本 社 長野県長野市大字鶴賀緑町1631番地3号  
機材センター 長野県長野市真島町川合北宮島2036番地

### 3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者		新井重隆
環境管理担当者	管理部	鹿熊 聡
	土木部	大谷章彦
	建築部	神田知徳
	環境管理事務局	総務部 鹿熊 弘
連絡先	TEL	026-235-3311
	FAX	026-235-3315
	HP	<a href="http://www/kakumagumi.com">http://www/kakumagumi.com</a>
	E-mail	info@kakumagumi.com

### 4) 事業内容

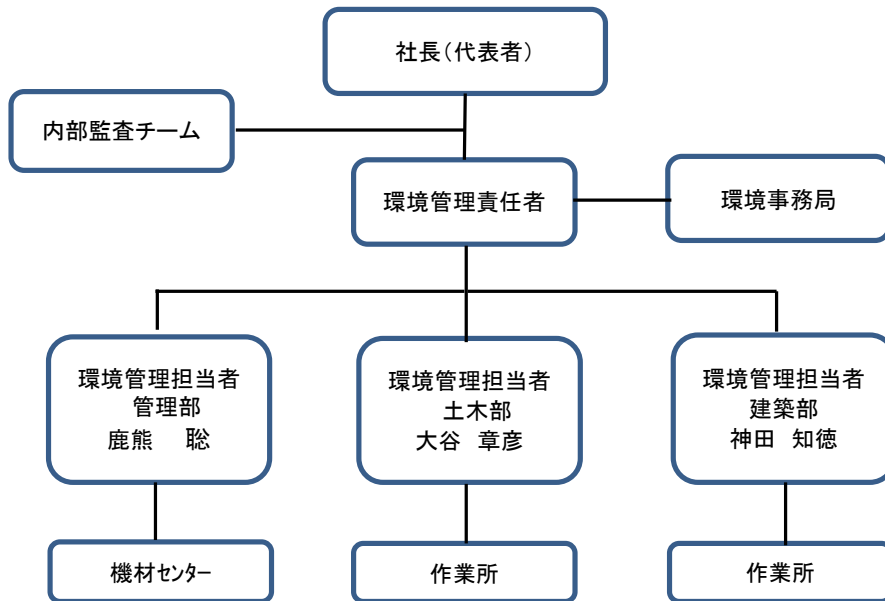
総合建設業 許可番号 長野県知事 許可(特-26)第22710号

建設業の種類  
土木、大工、石、管、鋼構造物、しゅんせつ、  
防水、造園、建築、とび・土工、屋根、  
タイル・れんが・ブロック、舗装、塗装、  
内装仕上、水道施設工事業

### 5) 事業規模

完成工事高		
58期	5,220百万円	(2016年6月1日~2017年5月31日)
59期	2,482百万円	(2017年6月1日~2018年5月31日)
60期	2,177百万円	(2018年6月1日~2019年5月31日)
61期	3,017百万円	(2019年6月1日~2020年5月31日)
従業員数	83人	
本社床面積	1132.1m <sup>2</sup>	
機材センター床面積	5963.6m <sup>2</sup>	

### 3. 活動組織



責任者	役割・責任・権限
社長（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備</li> <li>環境管理責任者・部門担当者を任命</li> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>環境目標・環境活動計画書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理、</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ票を承認</li> <li>環境目標・環境活動計画書を確認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告・</li> <li>環境活動レポートの確認</li> <li>環境事務局の設立、担当者の任命</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局</li> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>環境目標、環境活動計画書原案の作成</li> <li>環境活動の実績集計</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
環境管理担当者 (部門長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営システムの計画・実施</li> <li>自部門における環境方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>教育、訓練を実施、記録の作成</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> <li>環境活動の内部コミュニケーションの実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>環境活動の具体策の提案、活動状況の定期報告</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

#### 4. 環境目標

2018年(60期)の実績値を基準値とし、2019年の1年間の目標値、環境活動計画及び具体的施策を下表の通り策定した。

	目標値	活動計画・施策
省エネルギー化	<b>電力の削減</b> 基準年度実績 275,106 kWh 2018 142,504 kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数: 0.518 2019 年度目標 27373 kWh 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 141,791 kg-CO2 ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2020 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2021 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	1. 空調温度の適正化・熱の出入りの調整 2. 時間帯消灯・機器電源OFF(昼休憩・外出時等) 3. 時間帯消灯・機器電源OFF(休日・夜間) 4. 効率化による残業・休日出勤削減 5. 空間利用(在室人員のまとまり)の工夫 6. 省電設定、省電機器の導入の追加検討 7. 社内ルールの遵守(制限・約束)  中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 前年検討事項の実施への取組 3. 社員行動の不良部の改善 4. 残業・休日出勤の削減 5. 更なる向上のための手順改善 6. 社内ルールの遵守 7. 新規改善策の検討
	<b>燃料の削減</b> 基準年度実績 2018 ガソリン 71,312 0 軽油 48,025 0 灯油 34,468 0 年 377,484 Kg-CO2  2019 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 375,596 Kg-CO2 ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2020 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2021 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(通勤・移動車両) 1. エコドライブの導入 2. 日常点検の励行 3. 相乗りの推進 4. 運行経路の適正化 5. 省エネ車両への交換 (重機械) 1. アイドリング時間の短縮 2. 休憩時間のエンジンストップ 3. 過剰負荷の軽減(輸送) 1. 共済みの励行 2. 配送経路の適正化・集約化(設備) 1. 定期点検の励行  中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 重点事項の推進(重点事項) ・エコドライブの励行 ・省エネ車両への交換の推進 ・関係会社の協力による適正機械の使用促進 ・作業手順の適正化による過剰負荷の軽減 ・作業所間調整による運行経路の適正化による走行距離の短縮 ・省エネルギー型機器の導入の可能性の検討 ・新規改善策の検討
廃棄物排出量削減	<b>一般廃棄物の削減</b> 基準年度実績 5,236 kg 2018  2019 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 5,210 kg ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2020 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2021 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (減量) 1. ペーパーレス化の促進 2. 書類の簡素化の推進 3. 両面コピーの促進 4. ミスコピー・ミス印刷の減量  中期計画 1. 前年手段の継続 2. 重点事項の推進(重点) ・不良者の発見と指導 ・周知・徹底 ・整理整頓 ・工夫及び意識改革 ・手順の改善(社内資料) ・保管書類の削減(保管基準、保管方法)
	<b>産業廃棄物の削減・リサイクル化</b> 基準年度実績 3,393.00 t 2018  2019 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 3,376.04 t ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2020 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2021 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚 2. 廃棄物に関する知識の向上 3. 本社廃棄物の重量測定～社内への通知・減量促進  中期計画 1. 前年手段の継続 (全般) 2. 分別ボックス・スペースの必要な改善 3. 周知・徹底のための再教育 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚のための再教育
水資源使用量削減	<b>水道水の削減</b> 基準年度実績 920.0 m <sup>3</sup> 2018  2019 年度目標 基準年度比 98% 削減率 -2% 目標値 901.60 m <sup>3</sup> ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2019 年度目標 前年比-2.0% 96% 2020 年度目標 前年比-2.0% 94%	(本社) 1. 自動給水装置の水量調整 2. 節水の励行の周知・徹底のための社員教育(作業所・機材) 1. 用水利用の促進 2. 雨水利用の促進  中期計画 1. 前年度の継続(作業所) 1. 洗車回数の制限 2. 循環型の導入等による再利用の促進

	目標値	活動計画・施策
環境配慮資材購入	<b>事務用品のグリーン購入</b> 2018 年度目標 購入品設定品目の維持 2019 年度目標 今年度実績により 設定変 2020 年度目標 更	1. 優先購入決定品の維持 2. 白色を落とした紙類の購入→減量へ移行 3. 優先購入対象品目の増加  中期計画 1. 前年手段の継続・改善
製品への環境配慮	<b>環境配慮型建設材料、工法の提案・実施</b> 基準年度実績 提案率 2018 実績調査不能  2019 年度目標 官庁・民間工事創意工夫 = 施工・材料提案 実施50%  ※設定目標値については年度ごとの受注高により変動有 2020 年度目標 年度ごとの実績により 2021 年度目標 設定変更します	1. 設計、見積案件においての、環境配慮型材料・工法・設備の提案のための基準作成 2. 上記について提案の実施 3. 熱意を持った働きかけ 4. 官庁・民間工事(環境配慮) 創意工夫・ボランティア活動等の実施  中期計画 前年手段の継続・改善

## 5. 環境活動の取組結果と評価

### 1) 環境活動の取組結果

(注意:61期目標及び実績は12ヶ月経過の2020年5月)

排出係数中部電力0.462

項目	区分	管理種別	単位	60期実績	61期目標	61期実績	対目標比率	評価	
電力の削減	電力	本社・機材	使用量	kwh	64,760	64,436	67,508	104.8%	×
			CO2換算値	kg-CO2	33,545	33,377	31,189		
	作業所	使用量	kwh	210,346	209,294	93,545	44.7%	◎	
		CO2換算値	kg-CO2	108,959	108,414	43,218			
	合計		CO2換算値	kg-CO2	142,504	141,791	74,406	52.5%	◎

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意:61期目標及び実績は12ヶ月経過の2020年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	60期実績	61期目標	61期実績	対目標比率	評価	
燃料の削減(1)	ガソリン	本社・機材	使用量	リットル	62,328	62,016	73,369	118.3%	×
			CO2換算値	kg-CO2	144,704	143,980	170,217		
		作業所	使用量	リットル	8,984	8,939	3,698	41.4%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	20,857	20,753	8,580		
	合計		CO2換算値	kg-CO2	165,561	164,733	178,797	108.5%	×
	軽油	本社・機材	使用量	リットル	9,116	9,070	7,696	84.8%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	23,923	23,803	19,856		
		作業所	使用量	リットル	38,909	38,714	58,106	150.1%	×
			CO2換算値	kg-CO2	102,110	101,599	149,913		
	合計		CO2換算値	kg-CO2	126,033	125,403	169,769	135.4%	×
	灯油	本社・機材	使用量	リットル	1,809	1,800	2,519	139.9%	×
			CO2換算値	kg-CO2	4,507	4,484	6,272		
		作業所	使用量	リットル	32,659	32,496	15,985	49.2%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	81,383	80,976	39,804		
	合計		CO2換算値	kg-CO2	85,890	85,461	46,076	53.9%	◎
燃料の削減(2)	都市ガス	本社・機材	使用量	m3	14,707	14,633	9,685	66.2%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	31,008	30,853	20,920		

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意:61期目標及び実績は12ヶ月経過の2020年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	60期実績	61期目標	61期実績	対目標比率	評価		
CO2排出量の削減		本社・機材	CO2換算値	kg-CO2	237,687	236,499	248,453	105.1%	×	
			作業所	CO2換算値	kg-CO2	313,309	311,742	241,516	77.5%	◎
			合計	CO2換算値	kg-CO2	550,996	548,241	489,969	89.4%	◎

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意:61期目標及び実績は12ヶ月経過の2020年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	60期実績	61期目標	61期実績	対目標比率	評価	
水使用量の削減	水道・下水	本社・機材	使用量	m3	749	734	844	115.0%	×
			作業所	使用量	m3	171	168	1,774	1058.6%
	合計	使用量	m3	920	902	2,618	290.4%	×	

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意:61期目標及び実績は12ヶ月経過の2020年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	60期実績	61期目標	61期実績	対目標比率	評価	
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	コビ-用紙	使用量	kg	5,236	5,210	6,632	127.3%	×
			全体量	t	3,393	3,376	6,757	200.2%	×
	産業廃棄物	再生不可率	%	0.72%	0.33%	1.50%	454.5%	×	

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)



## CO2排出量の推移

年度	2016	2017	2018	2019	単位
排出量	755,398	803,608	548,241	489,969	kg-CO2
目標値	732,664	729,000	799,590	795,592	kg-CO2
完工高	3,494	5,220	2,482	3,017	百万円

### 二酸化炭素排出量



## 2) 環境活動の取組結果の評価

### 1. 省エネルギー化(CO<sub>2</sub>排出量の削減)

項目	区分	数値評価	活動評価
電力	本社・機材	目標値+4.8% = ×	10月より第二社屋が稼働した。想定よりも電力消費量は抑えられている。LED化・センサー付きライトの設置等の工夫が結果に繋がっている。しかし、更なる削減に向けて、衣服の調整により冷房費・暖房費の削減に努力する。
	作業所	目標値-55.3% = ◎	今期、作業所の現場使用量は、大幅に減少している。24時間稼働の作業場がないことが一番の要因である。 社員の省エネルギーへの意識も非常に高く、努力の賜物である。例年の作業所電力の数値の中でもかなり良い数値であり、今後の良いベンチマークの一つとなる数値である。
ガソリン	本社・機材	目標値+18.3% = ×	車両の燃費は、運転者個人によってかなり差が出ている。 まずエコドライブを推進し個人の意識を高め、ハイブリッド車導入等の策により更なる削減を図っていかないと考える。新しい施策を検討していく必要もあるが、現行施策を更に積極的に進める事による効果も見込める事から使用量削減の為の改善努力を継続していく必要がある。
	作業所	目標値-58.6% = ◎	作業所専用車両が減ったことが要因と思われる。 車両についてはエコドライブに加え、HV車、軽車両等燃費率のよい車種の採用、作業所機器等については、エコ仕様機の選択等による削減努力を継続していきたい。
軽油	本社・機材	目標値-55.4% = ◎	輸送作業が主な使用目的である。車両は変更していない。 遠隔地作業所への長距離運搬移動が減ったことによる減量が最大の要因と考えられる。
	作業所	目標値+58.6% = ×	昨年度より受注高が増加したことが要因である。 機械の省エネ化については、当社及び下請け業者を含め、省エネ型の機械導入に努めている。 こまめなエンジンカット、使用者への教育等により削減努力、省エネ機器の導入・利用については協力を通じ、引き続きお願いしていく予定である。
灯油	本社・機材	目標値+39.9% = ×	今期、本社で増加。第二社屋が稼働したことが一番の要因である。削減に向けて、こまめな暖房機器の調節を実施・長時間労働は正を目標とする。
	作業所	目標値-51.3% = ◎	冬期の24時間稼働現場がないことも要因であるが、現場の社員の意識や努力の賜物である。 こまめな暖房器具の調整などの工夫が結果に繋がっている。今後も継続していきたい。
都市ガス	本社・機材	目標値-33.8 = ◎	すべての月で非常に抑えられており非常に結果である。 冷暖房に使用している。未使用空間での冷暖房運転の削減等による改善を進めている。 気候に左右された点が多いとは思われるが、省エネ機器の導入・既存機器の整備点検についても検討を進めている。
<p>(まとめ)</p> <p>本年度は第二社屋稼働。本社において電力量が増加しているが想定していたよりもLED化・センサー付きライトの設置等の工夫により抑えられており、良い結果となっている。しかし、本社での灯油使用量は増加。長時間労働の是正・こまめな暖房機器の調整により今後削減努力をする。 ガソリンの使用量において、昨年よりも増加傾向である。運転者個人により車両燃費に大きく差が出ている。エコドライブを推進し、個人の意識を高めることに努める。 現場については、受注の内容、現場の状況、天候等に各要素が大きく左右される事であり、その数値については是非の判断は難しいが、職員一人一人の、環境配慮への意識については、年々向上が見られている。結果に繋がる行動を今後も期待している。</p>			

### 2. 廃棄物排出量の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
廃棄物	一般廃棄物	(コピー用紙購入量) 目標値+24.4% = ×	第二社屋稼働に伴い、それぞれでの部署より用紙の発注をかけたこと・工事の繁忙期を見越して、紙類の大量購入を行ったことが増加要因と考える。
	産業廃棄物	(産業廃棄物総量) 目標値+100.2% = ×	受注高の増加に伴い、増加に転じている。受注内容に拠って変わってくる項目の為判断が難しい箇所ではある
		(全産業廃棄物中の混合廃棄物の割合) 目標値0.33% → 結果1.67 = ×	混合廃棄物に関して増加。本社の改装・第2社屋の稼働に伴い、工事関連の波だけでなく社内での不用品廃棄の際に分別処分が、おろそかになった事が考えられる。 目標値をクリアできている月もある為、目標が過大とは考えにくい。
<p>まとめ</p> <p>産業廃棄物の総量については、今後とも受注状況により変化するという現実があり、その点については今後も想定が難しい処である。しかしながら、混合廃棄物については、努力と根気による処が大きく左右する処であり、今後も可能な限りの3R活動の推進を図り、確実な分別による混合型の廃棄物の削減についてもその努力を継続する予定です。</p>			

### 3. 水資源使用料の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
水資源	本社・機材	目標値+14.9% = ×	第二社屋稼働以降、想定より増加している。今後節水に向けた取り組みが必須である。水圧調整・トイレ用節水機の使用等を今後検討する。
	作業所	目標値-72.8% = ×	先期は水を使用する工事が少なかったのに対し、今期は多かったことが大幅な使用量増につながっている。 受注内容に拠る為指標として難しいところであるが、現場での地下水、用水の活用等節水意識をより一層高めていく。

#### まとめ

現場での使用水量については、受注要件により大きく左右されるが、用水等を養生散水として使用する事、排水時には適切な処理の実施による、自然循環を心がけ水道水の使用量を減量できるよう努力を期待している。本社においても、第二社屋への水圧調整・トイレ用節水機の使用等を今後検討する。

### 4. グリーン購入

コピー用紙のグリーン購入化については、例年取組を予定しつつも、経費の面でなかなか取組みができない状態である。メール等への資料添付による、ペーパレス化をさらに進め、使用量の削減についての努力は今後も継続していきたい。  
使用量の多い紙類と共に、日頃から購入頻度の高い物品に関して、社内グリーン購入推奨品目と位置づけ、その物品以外のものについても、購入時には積極的に選択するよう指導している。  
また、現場購入品についてもグリーン購入品目を優先できるものについては、積極的に選択して購入していくよう指導している。経費について通常商品を購入するよりも、割高となる実態は変わっていない為、当社としては全量をグリーン購入に頼る事は、経営的には不適と判断している。  
今後も新たな商品が開発され続けていくことから、当社としても可能な限りの導入検討を進めて行く。

### 5. 製品への環境配慮

公共工事においては、受注物件を精査し、100%ではないが半数以上の現場において、工法・機械・材料・安全管理等の環境配慮提案がなされている。民間受注工事についても、使用する材料、工法等についての環境配慮提案を行い施主様のご理解を得られるようになってきている。  
配置された職員一人一人の意識の高さ・近年の環境変化が、顧客のご理解を得られている要因であろうと考える。

### 6. 環境活動

本社外周、機材センター外周、各施工現場において、周辺環境の美化活動を実施してきた。今後も都度継続していきます。  
活動内容について、組織的な環境活動は、毎週の本社及び機材センター周辺の清掃を実施、植栽植え替え等しているが、現場単位での活動では、現場及び事務所周辺の側溝清掃、草刈り、緑化、用水路清掃・景観活動、除雪等の支援活動等多岐に渡る活動を実施しており、地域住民の方・工事発注者の方より高く評価いただいています。  
また、工事現場のイメージアップにもつながっており、今後も地域に根差した積極的な活動を実施していきます。

## 6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

### 1. 環境関連法規の遵守状況

法規制等の名称	該当事項	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	・保管場所の基準の遵守、保守(保管施設、囲い、掲示板等) ・収集運搬許可の確認 ・収集運搬者、処理業者との契約締結 ・マニフェスト発行、管理 ・マニフェスト保管(5年間) ・産廃管理計画書・報告書の提出(毎年6月)	遵守 違反なし
資源の有効な利用の促進に関する法律	建設工事における再生資源の利用促進	・再生資源利用計画書・実施書の提出	遵守 違反なし
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	建設特定資材廃棄物の再資源化	・再生資源利用計画書・実施書の提出	遵守 違反なし
騒音規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う騒音	・特定建設作業は届出	遵守 違反なし
振動規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う振動	・特定建設作業は届出	遵守 違反なし
水質汚濁防止法	油脂を含んだ水の排出	・事故により油を含んだ水が公共用水域に排出された場合は応急処置を施すと共に県知事に届出	遵守 違反なし
大気汚染防止法	建設機械に関する指針	建設帰化に関する技術指針に則り、排出ガス基準を遵守	遵守 違反なし
労働安全衛生法	石綿障害予防規則	石綿飛散防止対策マニュアルに則り、石渡ばく露防止の徹底	遵守 違反なし
じん肺法	粉塵障害予防規則	工事により発生する粉塵の抑制・拡散防止・保護具着装	遵守 違反なし
グリーン購入法	事務用品の購入	環境物品の調査、購入品目設定・調達	品目調査・設定・調達適切に実施
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律及び政省令	特定自動車の使用制限規制	・規制適合車の使用	遵守 違反なし
消防法 消防法施行令 消防法施工規則	油類の流出防止	・保管場所の基準の遵守、保守(保管施設、囲い、掲示板等)	遵守 違反なし

### 2. 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟・環境関連苦情等について、この7年発生していません。

## 7. 代表者の評価と見直し

当社がエコアクション21の認証を2014年2月に取得し、早いもので6年が経ちました。令和2年1月にガイドライン2009年版から2017年版への移行審査を受け、無事認証維持を認めていただくことができました。

また、本年1月には、国連主導のもと2030年までの環境を含めた全世界的活動であるSDGsについても、長野県の推進企業として登録していただく事ができました。

今後共、持続可能社会実現の為、企業として可能なことは何かを模索し続けてまいります。

さて、今年度の評価ですが、電力・化石燃料については台風災害以降の緊急出動等があったにもかかわらず、前年の想定よりも非常に良い数値となっています。

受注と切り離しては考えられませんが、受注増⇒使用量増とはならず、受注増⇒使用量削減となったことは、大いに評価できることであり、施工部門を中心にした様々な工夫や努力、意識の向上によるものと思っています。

しかしながら、すべての項目が良好な結果が残せたわけではございません。

例年問題となっている、廃棄物の混合処分量については、本年も目標の達成とはなりませんでした。受注した工事が解体工事が格段に増えたという状況ではありませんが、混合処分量が増加してしまった最大の要因は、昨年8月の社屋4階部分の火災、その後の社屋改修の際に、工事を急ぐあまり分別処分が徹底しきれなかったことが要因と思われます。目標値を達成できている月も見受けられるため、一つ一つの積み重ねを大切に、数値の向上＝減量につなげて行きたいと考えています。

環境配慮製品・工法等については、各作業所とも重機・発電機等NETIS登録製品を使用することにより、Co2の削減に積極的になされている。また、発注者への環境配慮製品の提案等も公共工事を中心に行われている。民間工事についてはコスト大になるケースが多いため、まだまだ提案が認められることは少ないですが、環境配慮製品・環境に配慮した工法の提案を今後も継続していきます。

今年度も新たな施策は見受けられませんが、62期に向け新たな目標を設定し、当社の社員だけでなく関連する業者の皆様にもご協力を賜りつつ、持続可能社会の実現に向けた取り組みを、進めてまいります。

令和1年6月20日

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 聡